
ホットニュース(平成12年度／第29号)

●今月の業界ホットニュース／～「豊かで快適な環境形成」のための投資～

そごうショックの次にゼネコンの経営危機説が絶えない。債権問題だけでなく、再建計画の背景となる建設市場の長期低落予測が合せて掲載されたりもしている。一部の試算による建設投資額は、1992年度の84兆円をピークに、1999年度は約71兆円、2005年度は約63兆円、2010年度は約55兆円とピークに比べて34%も落ち込むとされている。

この数字の妥当性はともかく、傾向としては次のことが言えよう。

日本は成熟型社会に入り、経済規模が一定水準を維持するとしても、建設投資は確実にシェアを低下していく。逆に言えば、一定水準の経済規模を維持するための投資規模が余り変わらないとすると、従来の建設投資減少分は、他の投資に回ることになる。

これまでの建設投資の意味は、都市化社会の進展に対応して、「豊かで快適な環境形成」のためのハードへの投資であったと考えられる。しかしこの目標が十分に達成されていないままに、ハードへの投資は減少することは明らかであるが、依然として「豊かで快適な環境形成」への社会的ニーズは大きいことになる。従って、成熟型IT社会に相応しい「豊かで快適な環境形成」のための投資が必要になってくると考えられる。

この意味では、交通施設等の使い方というソフトな施策によって、環境改善や混雑解消による都市機能の回復を狙いとするTDM施策などは、先進的事例と言えよう。ハードへの投資は少ないが、ソフトなシステムづくりや、ITを活かした技術的方法論の確立など、この種の施策を実施可能とする諸環境の形成に積極的な投資が期待される。

(代表取締役 堀田紘之)

●都市計画法の改正

改正都市計画法及び建築基準法の主たる改正内容が示されてからおよそ3ヶ月が経過した。来年度の施行を控えコンサル業界でも改正内容がよく話題に上がる。自治体の担当者におかれても内容把握と制度運用の方針など、日夜検討されていることと思われる。

今回の改正の目玉！と言うと大袈裟かもしれないが、土地利用規制の新たな枠組みとして、非線引き都市計画区域の白地地域を対象とした「特定用途制限地域」と、都市計画区域外における規制手段となる「準都市計画区域」が創設された。両者とも無秩序なスプロール開発を防止し、良好な地域環境を保全・形成することを主眼にしている。

決定主体は両者とも市町村決定となるため、非線引き都市や、都市計画区域外を有する自治体には、制度の運用に積極的なところもあるのではと思ひ、若干ではあるが仕事上でつきあいのある担当者にヒアリングを試みた。

ところが結果は、制度を活用する予定はない、今はまだわからないといった類の回答が殆どであった。まだ法の施行前であり、県の方針も出ていない中でのヒアリングは時期尚早であったのかもしれない。A市(非線引き)の意見にあった「新たに制限をかけるくらいなら、とっくに線引きしてます。でも地元の合意が得られないまま10数年過ぎました。法改正の主旨は理解できるが、現行の規制内容でやっていかざるを得ない」という思いが、実は多くの自治体に共通した悩みであるのかもしれない。

結局は、「指定すべき場所」よりも「指定しやすい場所」にかけられることになってしまうのだろうか...

「指定すべき場所」に指定できるようするためにも、自治体の運用をめぐる動向については引き続き着目し、考えていきたい。ご意見等も、是非お待ちしております！

(第一計画室 津端知也)

●ドーバー海峡トンネル

この夏、ユーロスターに乗ってドーバー海峡トンネルを通過する機会を得た。150億US\$をかけた50kmの海峡トンネルに、ロンドンとパリ・ブリュッセルを3時間で結ぶユーロスターは1994年に開業したが、利用客は年々増加し、1999年は約700万人(前年比+4%)に達した。一方、1988年に開業したわが津軽海峡線は、利用者は減少の一途をたどっており、1995年で約200万人になってしまった。

ところで、ドーバー海峡トンネルには貨物専用の海峡トンネルシャトルが運行されているが、英国ではこれに加えて2007年の開業を目標に、民間によるCentral Railway プロジェクトが進められている。これは、英国の中南部の工業都市リバプール、マンチェスターからロンドンを経て海峡トンネルに至る鉄道貨物線を既存路線の改良により整備し、英国・大陸間の貨物トラック交通の40%をトラック積載用の貨物列車利用に転換しようとするものである。このため、建築限界の狭い英国側の鉄道路線を国際基準にまで拡大・改良する計画である。これにより市場統合により増大する英国・大陸間の物流需要の拡大に応え、更に物流費用を低下させるとともに、自動車排出ガスによる大気汚染および道路混雑緩和に大きな効果が期待されている。

わが国でも、地球温暖化・環境対策あるいは新幹線開業による在来線の活用方策の検討の中から、英国のCentral Railway プロジェクトに匹敵する構想が生まれてほしい。

(第四計画室長 矢島充郎)

=====

●青年海外協力隊に合格しました！

=====

…と言っても、正確には隊員候補生なのですが。派遣予定国はモロッコ。派遣時期は平成13年4月で、1月から研修に入ります。無事、研修が終了した暁には、晴れて正式な隊員として派遣されるのです。

さて、この青年海外協力隊とは(ご存じの方に言説くのも恐縮ですが)、国際協力事業団(JICA)の実施する事業であり、日本の ODA(政府開発援助)の無償資金協力の中でも草の根的な部分を担っています。隊員募集は春と秋の年2回あり、1次試験の筆記試験と健康診断、2次試験の面接試験を突破すれば、隊員候補生となれるわけです。なお、4月の募集開始時点で844件の要請があった中で、今回この試験に応募した人は全国で3,410人、実際に試験を受けた人は2,465人。ただし、採用は約160 種ある職種毎に行われるので、競争率もそれぞれに異なります。私の受験した「都市計画」では、3件の要請に対し8人の人が受験しました。

派遣予定国は、本人の希望も考慮されますが、要請内容と本人の能力を照らして決められます。ちなみに、私の派遣予定国となったモロッコの要請内容とは、「観光業が主な財源でありながら、観光地としてのインフラ整備が遅れているイムゼル市で、予算がきわめて少なく公共サービスも十分でないという限られた諸条件の中で、同僚と協力して市行政の問題点を長期的視野を持って解決する」というものです。

さて、私はこの要請に対してどれだけのことができるのでしょうか。これまでアルメックで経験した3年間で、情報の整理と問題点の発掘という点ではかなり鍛えられてきたと思いますが、“長期的視野を持った解決”の方法を見いだすことができるのでしょうか。そんな不安と、必ずやり遂げてみせる！という大いなる野望(?)を抱いて、頑張ってきたと思います。

(第三計画室 酒井夕子)

アルメックホットニュース(平成12年8月15日発行)

////////////////////////////////////